

「二木立の医療経済・政策学関連ニューズレター」

2014年総目次（114号～125号。全12号配信）

114号:2014. 1. 1（19頁）

1. 論文：第二次安倍内閣の医療・社会保障政策－第8回日韓定期シンポジウムでの報告（「二木学長の医療時評」（119）『文化連情報』2014年1月号（430号）：26～32頁）
2. 第8回日本福祉大学・延世大学 第8回日韓定期シンポジウム・学長挨拶（2014年11月30日）
3. 駐名古屋大韓民国総領事館主催「新しい百年のための日韓セミナー」での発言（2013年12月16日）
4. 日本福祉大学健康社会研究センター・シンポジウム「日本における健康格差と『健康の社会的決定要因』」・学長挨拶（2013年12月8日）
5. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文（通算96回、2013年分その9：5論文）
6. 私の好きな名言・警句の紹介（その109）－最近知った名言・警句

115号:2014. 2. 1（17頁）

1. 論文：韓国の医療産業化政策をめぐる論争を読む（「深層を読む・真相を解く(29)」『日本医事新報』2014年1月11日号（4681号）：13-14頁）
2. 日本の医療と医療政策についての韓国・国民健康保険公団からのインタビュー調査への回答（2013年11月29日）
3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文（通算97回、2013年分その10：7論文）
4. 私の好きな名言・警句の紹介（その110）－最近知った名言・警句

116号:2014. 3. 1（25頁）

1. 論文：財政審「建議」の診療報酬引き下げ論の検証（「二木学長の医療時評」（120）『文化連情報』2014年3月号（432号）：12-17頁）
2. インタビュー：地域包括ケアシステム 何故必要か 「死亡難民」出さない対策（共同通信配信。「中国新聞」2014年2月9日朝刊、他）
3. インタビュー：医療は永遠の安定成長産業 機能強化とネットワーク力を（安藤たかおの突撃インタビュー（第9回）『日本慢性期医療協会誌（JMC）』第91号、2014年2月）
4. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文（通算98回、2013年分その11：8論文）
5. 私の好きな名言・警句の紹介（その111）－最近知った名言・警句

117号:2014. 4. 1（17頁＋別ファイル）

1. 論文：政府の7対1病床大幅削減方針は成功するか？
 （「深層を読む・真相を解く(31)」『日本医事新報』2014年3月29日号(4692号)：142-143頁）
2. インタビュー：薬価引き下げ分の診療報酬への振り替えは「根拠」に基づく慣行である
 （『国際医薬品情報』2014年3月24日号(通巻1006号)：20-25頁）
3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文(通算99回、2014年分その1：6論文)
4. 私の好きな名言・警句の紹介(その112)－最近知った名言・警句
5. 大学院「入院」生のための論文の書き方・研究方法論等の私的推薦図書(2014年度版, ver. 16)(別ファイル:14院本推薦二木.doc)

118号:2014.5.1(17頁+別ファイル)

1. 論文：7対1病床大幅削減方針の実現可能性と妥当性を考える
 （「二木学長の医療時評(121)」『文化連情報』2014年5月号(434号)：16-22頁。3つの図表は別ファイル：14文時評121図表）
2. 新著『安倍政権の医療・社会保障改革』（勁草書房,2014年4月30日）の「はしがき」と「あとがき」。
3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文(通算100回、2014年分その2：6論文)
4. 私の好きな名言・警句の紹介(その113)－最近知った名言・警句

119号:2014.6.1(17頁+別ファイル)

1. 論文：規制改革会議「選択療養制度」提案の問題点と実現可能性を考える
 （「二木学長の医療時評(122)」『文化連情報』2014年6月号(435号)：18-23頁）
2. インタビュー：希望をもって病院運営を（『安倍政権の医療・社会保障改革』出版記念インタビュー）『文化連情報』2014年6月号(435号)：10-17頁 [別ファイル]
3. 最近出版された医療経済・政策学関連図書(洋書)のうち一読に値すると思うものの紹介(その27)：9冊
4. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文(通算101回、2014年分その3：5論文+雑誌特集)
5. 私の好きな名言・警句の紹介(その114)－最近知った名言・警句

120号:2014.7.1(26頁)

1. 論文：医療・介護総合確保法案に対する3つの疑問－医療提供体制改革部分を中心に（「深層を読む・真相を解く」(33)『日本医事新報』2014年5月17日号：17-18頁）
2. 論文：2014年「地域包括ケア研究会報告書」をどう読むか？
 （「深層を読む・真相を解く」(34)『日本医事新報』2014年6月14日号(4703号)：15-16頁）
3. 論文：リハビリテーション医に必要な医療経済・政策学の視点と基礎知識－効果的・効率的で公平なリハビリテーションのために

- (「二木学長の医療時評(123)」『文化連情報』2014年7月号(436号) : 16-24頁)
4. 日本ソーシャルワーク学会第31回大会・開催校学長挨拶(2014年6月21日)
 5. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文(通算102回, 2014年分その4 : 6論文)
 6. 私の好きな名言・警句の紹介(その115) - 最近知った名言・警句

121号 : 2014. 8. 1 (13頁+別ファイル)

1. 論文 : 「患者申出療養」の内容と背景と影響を複眼的に考える
(「二木学長の医療時評(124)」『文化連情報』2014年8月号(437号) : 18-22頁)
2. インタビュー : 7対1病床削減方針が看護の危機を招く
(『看護実践の科学』2014年7月号(39巻8号) : 40-48頁) (別ファイル)
3. インタビュー : 医療費抑制一辺倒では高齢者増に対応できない
(『週刊東洋経済』2014年7月19日号(6538号) : 65頁)
4. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文(通算103回, 2014年分その5 : 5論文)
5. 私の好きな名言・警句の紹介(その116) - 最近知った名言・警句

122号 : 2014. 9. 1 (12頁)

1. 論文 : 健康寿命延伸で医療・介護費は抑制されるか?
- 『平成26年版厚生労働白書』を読む
(「深層を読む・真相を解く」(36)『日本医事新報』2014年8月16日号(4712号) : 16-17頁)
2. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文(通算104回, 2014年分その6 : 7論文)
3. 私の好きな名言・警句の紹介(その117) - 最近知った名言・警句

123号 : 2014. 10. 1 (17頁)

1. 論文 : 予防・健康増進活動の経済評価の主な文献
(『文化連情報』2014年10月号(439号) : 13-17頁)
2. 論文 : 国民医療費の構造と論点
(日本社会福祉学会事典編集委員会編『社会福祉学事典』丸善出版, 2014年5月, 294-295頁)
3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文(通算105回, 2014年分その7 : 7論文)
4. 私の好きな名言・警句の紹介(その118) - 最近知った名言・警句

124号 : 2014.11.1(19頁)

1. 論文 : 2000年以降の日本の医療・社会保障改革 - 政権交代で医療政策は大きく変わるか?
(「二木学長の医療時評」(126)『文化連情報』2014年11月号(440号) : 10-16頁)
2. 論文 : 公的医療費抑制と医療の営利化は「避けられない現実」か?
(「深層を読む・真相を解く」(37)『日本医事新報』2014年10月18日号(4721号) : 17-18頁)
3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文(通算106回, 2014年分その

8 : 8 論文)

4. 私の好きな名言・警句の紹介 (その119) -最近知った名言・警句

125号 : 2014.12.1 (19頁+別ファイル : 9頁)

1. 論文 : 日本における混合診療解禁論争-全面解禁論の退場と「患者申出療養」『月刊／保険診療』2014年11月号 (69巻11号) : 40-44頁)

2. 論文 : 大きいことは良いことか? -「メガ医療事業体」論の虚構

(「深層を読む・真相を解く」(38)『日本医事新報』2014年11月15日号(4725号):16-17頁)

3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文 (通算107回, 2014年分その9 : 7 論文)

4. 私の好きな名言・警句の紹介 (その120) -最近知った名言・警句

補. 「ニューズレター」2014年総目次 (114~125号。全12号。医療経済・政策学関連の洋書・英語論文の目次、名言・警句の人名索引付き) (別ファイル : 14NL目次.doc) -

「二木立の医療経済・政策学関連ニュースレター」2014年(114～125号)

最近出版された医療経済・政策学関連図書（洋書）のうち一読に値すると思うものの紹介・目次

1回・合計9冊（累計212冊）

119号:2014.6.1:（その27）9冊

<医療経済学>

○『医療経済学』

Bhattacharya J, Hyde T, Tu P: Health Economics Palgrave Macmillan, 2014, 589 pages. [中級教科書]

○『医療経済・財政学 [第5版]』(Getzen TE: Health Economics and Financing 5th Edition. Wiley, 2013, 468 pages) [中級教科書]

○『医薬品経済学』

Comanor WS, Schwaitzer SO (eds): Pharmaceutical Economics. Edward Elger, 2013, 739 pages. [重要論文選]

○『疫学の経済学』

Tassier T: The Economics of Epidemiology. Springer, 2013, 94 pages. [入門書]

<医療・介護政策>

○『パラダイム凍結—なぜカナダでは医療政策の改革がこんなにも難しいのか?』

Lazar H, et al (eds.): Paradigm Freeze - Why it is so hard to reform health-care policy in Canada. McGill-Queen's University Press, 2013, 398 pages. [研究書（論文集）]

○『比較医療政策 [医療政策の国際比較] 第4版』

Blank RH, Burau V: Comparative Health Policy Fourth Edition. Palgrave, 2014, 373 pages. [教科書的研究書（国際比較）]

○『長期ケアの質の規制—国際比較』

Mor V, Leone T, Maresso A (eds): Regulating Long-term Care Quality: An International Comparison. Cambridge University Press, 2014, 493 pages [国際比較研究]

<その他>

○『医療提供と患者移動—ヨーロッパ連合における医療統合』

Levaggi R, Montefiori M (eds.): Health Care Provision and Patient Mobility. Springer, 2014, 244 pages. [研究論文]

○『医療サービス研究入門』

Walker D-M (ed): An Introduction to Health Services Research. Sage Publications, 2014, 362 pages. [初級教科書]

最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文・目次

合計78論文（累計699論文）

114号(2014.1.1)

6. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文

(通算96回. 2013年分その9:5論文)

○心血管疾患を持つアメリカ人がより多く長生きすれば、医療費は増加し [彼らの] 生活の質は低下するであろう

Pandya A, et al: More Americans living longer with cardiovascular disease will increase costs while lowering quality of life. *Health Affairs* 32(10):1706-1714,2013. [シミュレーション研究]

○ [日本を含む5つの] 高所得国の患者負担の趨勢

Zare H, et al: Trends in cost sharing among selected high income countries - 2000-2010. *Health Policy* 112(1-2):35-44,2013. [国際比較研究]

○ [アメリカにおける] メディケア支払い削減と患者アウトカム：主要5疾患の分析

Shen Y-C, et al: Reductions in Medicare payments and patient outcomes: An analysis of 5 leading Medicare conditions. *Medicare* 51(11):970-977,2013. [量的研究]

○イギリス国民保健サービス（NHS）を民営化する：[この用語は] 不規則動詞？

Powell M, et al: Privatizing the English National Health Service: An irregular verb? *Journal of Health Politics, Policy and Law*. 38(5):1051-1059,2013. [論説]

○医療ツーリズムの倫理：イギリスからインドへ医療を求めて

Meghani Z: The ethics of medical tourism: From the United Kingdom to India seeking medical care. *International Journal of Health Services*. 43(4):779-800,2013. [理論研究]

115号) (2014.2.1)

3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文

(通算97回. 2013年分その10:7論文)

○医療サービスの認証：費用を正当化する便益があるとの根拠は何か？

Mumford V, et al: Health services accreditation: What is the evidence that the benefits justify the costs? *International Journal for Quality in Health Care* 25(5):606-620,2013. [文献レビュー]

○プライマリケアでの投薬安全性を改善するための情報技術介入：体系的文献レビュー

Lainer M, et al: Information technology interventions to improve medication safety in primary care: A systematic review. *International Journal for Quality in Health Care* 25(5):590-598,2013. [文献レビュー]

○ [医療の] 過剰利用測定の実状：批判的文献レビュー

Chan KS, et al: The state of overuse measurement: A critical review. *Medical Care Research and Review* 70(5):473-496,2013. [文献レビュー]

○ [アメリカにおける医療の] 過剰利用と医療方式—体系的文献レビュー

Keyhani S, et al: Overuse and systems of care - A systematic review. Medical Care 51 (6):503-508,2013. [文献レビュー]

○ヨーロッパとアメリカ各州における安楽死と[医師による]自殺幫助一体系的文献レビュー

Steck N, et al: Euthanasia and assisted suicide in selected European countries and US states - Systematic literature review. Medical Care 51 (10):938-944,2013. [文献レビュー・国際比較]

○ヨーロッパにおける社会民主党系政府と保健医療政策：量的分析

Mackenbach JP, et al: Social-democratic government and health policy in Europe: A quantitative analysis. International Journal of Health Services 43 (3):389-413,2013. [量的研究・国際比較]

○環太平洋連携（TPP）協定はいかにしてニュージーランドでPHARMAC [医薬品管理庁]を浸食し、手頃な価格の医薬品に対するアクセスと健康の平等を脅かすか？

Gleenson D, et al: How the Trans Pacific Partnership Agreement could undermine PHARMAC and threaten access to affordable medicines and health equality in New Zealand? Health Policy 112 (3):227-233,2013. [政策研究]

116号(2014.3.1)

4. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文
(通算98回. 2013年分その11:6論文)

○[アメリカの]病院、マーケットシェア、そして統合

(Cutler DM, et al: Hospitals, market share, and consolidation. JAMA 310 (18):1964-1970,2013. [評論])

○急性期医療から在宅医療へ：[アメリカにおける]病院の責任の進化と増大する垂直統合の原理

Dilwali P, et al: From acute care to home care: The evolution of hospital responsibility and rationale for increased vertical integration. Journal of Healthcare Management 58 (4):267-276,2013. [評論]

○急性心筋梗塞における医療の質と院内資源利用：日本のエビデンス

Park S, et al: Quality of care and in-hospital resource use in acute myocardial infarction: Evidence from Japan. Health Policy 111 (3):264-272,2013. [量的研究]

○ナーシングホームにおける質に応じた支払い（P4P）の効果：[アメリカの]州メディケイドプログラムから得られた証拠

Werner RM, et al: The effect of pay-for-performance in nursing homes: Evidence from State Medicaid programs. Health Services Research 48 (4):1393-1414,2013. [量的研究]

○オーストラリアにおける一般診療の質に応じた支払い（P4P）の評価

Greene J: An examination of pay-for-performance in general practice in Australia. Health Services Research 48 (4):1415-1432,2013. [量的研究]

○包括払いが入院・治療方針に与える影響：[アメリカの]入院リハビリテーション施設から得られた根拠

Sood N, et al: The effect of prospective payment on admission and treatment policy: Evidence from inpatient rehabilitation facilities. Journal of Health Economics 32 (5):965-979,2013. [量的研究]

117号(2014.4.1)

**3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文
(通算99回, 2014年分その1:6論文)**

○OECD加盟国における診療のバラツキの体系的文献レビュー

Corallo AN, et al: A systematic review of medical practice variation in OECD countries. Health Policy 114 (1):5-14,2014. [文献レビュー]

○[アメリカ・カリフォルニア州の急性期]病院の在院日数と再入院:初期調査

Carey K, et al: Hospital length of stay and readmission: An early investigation. Medical Care Research and Review 71 (1):99-111,2014. [量的研究]

○[アメリカの]出来高払い制メディケア患者の急性期後リハビリテーション施設退院後30日以内の[急性期病院への]再入院

Ottenbacher KJ, et al: Thirty-day hospital readmission following discharge from postacute rehabilitation in fee-for-service Medicare patients. JAMA 311 (6):604-614,2014. [量的研究]

○[アメリカの]ノースカロライナ州における価値に基づく[医療]保険デザイン・プログラムは服薬遵守を改善したが費用中立的ではなかった

Maciejewski ML, et al: Value-based insurance design program in North Carolina increased medication adherence but was not cost neutral. Health Affairs 33 (2):300-308,2014. [量的研究]

○アメリカの病院におけるテレヘルス:州の償還方式と免許政策を含むいくつかの要因が導入に影響を与えている

Adler-Milstein, et al: Telehealth among US hospitals: Several factors, including State reimbursement and licensure policies, influence adoption. Health Affairs 33 (2):207-215,2014. [量的研究]

○医療ツーリズム 国境のある医療 医療はなぜグローバル化に失敗したのか?

Medical tourism - Medecine avec frontieres - Why health care has failed to globalise? The Economist February 15th 2014,pp.53-54. [評論]

[参考] 本「ニューズレター」50号(2008年8月)で紹介したThe Economist のレポート

○グローバル化と医療 [ツーリズム] -競争を輸入する

(Globalisation and health - Importing competition. Economist August 16th, 2008, pp.10,70-73) [評論]

118号(2014.5.1)

**3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文
(通算100回, 2014年分その2:5論文)**

○医療における新自由主義的改革の限界: ニュージーランドの医薬品管理の事例

Dew K, et al: Limits to neoliberal reforms in the health sector: The case of pharmaceutical management in New Zealand. International Journal of Health Services 44 (1):137-153,2014. [政策研究]

○「貿易クリープ」と環大西洋貿易投資パートナーシップ協定のイギリスNHSへの含意

Koivusalo M, et al: "Trade creep" and implications of the Transatlantic Trade and Investment Partnership Agreement for the United Kingdom National Health Services. International Journal of Health Services 44 (1):93-111,2014. [政策研究]

○ **【アメリカの】 2012年国民保健費用：医療費の伸び率は4年連続低水準**

Martin AB, et al: National health spending in 2012: Rate of health spending growth remained low for the fourth consecutive year. Health Affairs 33(1):67-77,2014. [解説]

○ **【アメリカの】 病院はメディケア価格の持続的低成長にどう対処しているか？**

White C, et al: How do hospitals cope with slow growth in Medicare prices? Health Services Research 49(1):11-31,2014. [量的研究]

○ **【アメリカにおける】 病院依存の患者**

Reuben DB, et al: The hospital-dependent patient. The New England Journal of Medicine 370(8):694-697,2014. [評論]

119号(2014.6.1)

4. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文

(通算101回. 2014年分その3:5論文+雑誌特集)

○ **特集：アルツハイマー病の長い射程**

"The long reach of Alzheimer's disease." Health Affairs 33(4),2014.

○ **予期せぬ便益：アルツハイマー病を予防するために【特定の慢性疾患の】危険因子に取り組むことの潜在的経済的影響**

Lin P-J, et al: Unintended benefits: The potential economic impact of addressing risk factors to prevent Alzheimer's disease. Health Affairs 33(4):547-554, 2014. [シミュレーション研究]

○ **研究を実践に移す：地域基盤の認知症介護者への介入【事業】の事例調査**

Mittelman MS, et al: Translating research into practice: Case study of a community-based dementia caregiver intervention. Health Affairs: 33(4):587-595,2014. [事例調査]

○ **【アメリカ等における】 高齢者虐待と認知症：研究と医療政策の文献レビュー**

Dong XQ, et al: Elder abuse and dementia: A review of the research and health policy. Health Affairs 33(4):642-649,2014. [文献レビュー]

○ **慢性疾患の機能【的能力】の最適化戦略としての地域基盤の運動プログラムー【ランダム化試験の】体系的文献レビュー**

Desveaux L, et al: Community-based exercise programs as a strategy to optimize function in chronic disease - A systematic Review. Medical Care 52(3):216-226,2014. [量的研究]

○ **疾患末期の患者とその家族介護者への在宅緩和ケアと通常ケアの便益と費用**

Gomes B, et al: Benefit and costs of home palliative care compared with usual care for patients with advanced illness and their family caregivers. JAMA 311(10):1060-1061,2014. [簡易文献レビュー]

120号(2014.7.1)

4. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文

(通算102回. 2014年分その4:6論文)

○ **終末期のがん患者に対する積極的治療対緩和ケアと【死亡前3カ月間の】医療費との関連：日本の医療費請求データを用いた横断調査**

Morishima T (森島敏隆), et al: Association of healthcare expenditures with aggressive versus

palliative care for cancer patients at the end of life: a cross-sectional study using claims data in Japan. International Journal for Quality in Health Care 26(1):79-86,2014. [量的研究]

○日本における1971～2008年の病院の平均在院日数：病院の開設者と医療費抑制政策

Kato N (加藤尚子), et al: Length of hospital stay in Japan 1971-2008: Hospital ownership and cost-containment policies. Health Policy 115(2-3):180-188,2014 [量的・質的研究]

○緊縮策と医療の政治経済学：ヨーロッパ27か国の1995～2011年の【政府】医療費の変化の国別分析

Reeves A, et al: The political economy of austerity and healthcare: Cross-national analysis of expenditure changes in 27 European nations 1995-2011. Health Policy 115(1):1-8,2014. [量的研究]

○近年の経済不況における【アメリカの】病院の財政パフォーマンスと財政的に脆弱な状態にとどまっている施設にたいする含意

Bazzoli GJ, et al: Hospital financial performance in the recent recession and implications for institutions that remain financially weak. Health Affairs 33(5):739-745,2014. [量的研究]

○医療とイデオロギー：OECD加盟国における公的医療費の政治的決定要因の再検討

Herwartz H, et al: Health care and ideology: A reconsideration of political determinants of public health funding in the OECD. Health Economics 23(2):225-240,2014. [量的研究]

○成果の宣伝と避難の回避の間【での揺れ動き】：韓国国民健康保険制度における優先順位設定の政治の変化

Kang M, et al: Between credit claiming and blame avoidance: The changing politics of priority-setting for Korea's National Health Insurance System. Health Policy 115(1):9-17,2014. [政策研究]

121号(2014.8.1)

5. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文

(通算103回、2014年分その5:5論文)

○アメリカの年齢・性別医療費の2002～2010年の趨勢

Lassman D, et al: US health spending trends by age and gender: Selected years 2002-10. Health Affairs 33(5):815-822,2014. [量的研究]

○【アメリカの】1980～2006年の医療費増加を要因別に分解したところ、毎年の治療費【単価】増加の寄与率が最も高かった

Starr M, et al: Decomposing growth in spending finds annual cost of treatment contributed most to spending growth, 1980-2006. Health Affairs 33(5):823-831,2014. [量的研究]

○【アメリカにおける医療の】垂直統合：病院の医師グループ所有は料金と費用の高さと関連している

Baker LC, et al: Vertical integration: Hospital ownership of physician practices is associated with higher prices and spending. Health Affairs 33(5):756-763,2014. [量的研究]

○【アメリカにおいて】社会経済的データを再入院率の計算に加えると、より有用な結果が得られる可能性がある

Nagasako EM, et al: Adding socioeconomic data to hospital readmissions calculations may produce more useful results. Health Affairs 33 (5):786-791,2014. [量的研究]

○ **【アメリカにおける】 薬剤費の自己負担の廃止は心血管疾患の【医療】格差を縮小する**
Choudhry NK, et al: Eliminating medication copayments reduces disparities in cardiovascular care. Health Affairs 33 (5):863-870,2014. [量的研究]

122号(2014.9.1)

**3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文
(通算104回. 2014年分その6:7論文)**

○ **なぜ医療インフレーション(価格上昇)は一般的インフレーション(一般物価水準の上昇)より高いのか?**

Charlesworth A: Why is health care inflation greater than general inflation? Journal of Health Services Research & Policy 19 (3):129-130. [評論]

○ **【アメリカの近年の】 医療費増加率の鈍化の大半は経済的要因によるものであり、医療部門の構造改革によるものではない**

Dranove D, et al: Health spending slowdown is mostly due to economic factors, not structural change in the health care sector. Health Affairs 33 (8):1399-1406,2014. [量的研究]

○ **【アメリカにおける】 病院の統合、競争と質—大きいことは常に良いことか?**

Tsai TC, et al: Hospital consolidation, competition, and quality Is bigger necessarily better? JAMA 312 (1):29-30,2014. [評論]

○ **【アメリカとイギリスにおける】 統合：企業と医療部門**

Laugesen MJ, et al: Integration: the firm and the health care sector. Health Economics, Policy and Law 9 (3):295-312,2014. [理論研究、比較研究]

○ **【医療提供面分野の】 公私パートナーシップは健全な選択か?体系的文献レビュー**

Roehrich JK, et al: Are public-private partnership a healthy option? A systemic literature review. Social Science & Medicine 113:110-119,2014. [文献レビュー]

○ **量【手術数】を超えて：病院の複雑性は重要か?—アメリカの病院の入院患者の術後【30日以内】死亡率の分析**

McCrum ML, et al: Beyond volume: Does hospital complexity matter? An analysis of inpatient surgical mortality in the United States. Medical Care 52 (3):235-242,2014. [量的研究]

○ **地域【連携】 クリニカルパスが日本の脳卒中患者の在院日数に与える影響**

Fujino Y (藤野善久), et al: Impact of regional clinical pathways on the length of stay in hospital among stroke patients in Japan. Medical Care 52 (7):634-640,2014. [量的研究]

123号(2014.10.1)

**3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文
(通算105回. 2014年分その7:7論文)**

< P 4 P (5論文) >

○ **イギリスにおける【家庭医対象の】 質に応じた支払い【P 4 P】の成功と失敗**

Roland M, et al: Success and failures of pay for performance in the United Kingdom. NEJM

370(20):1944-1949,2014. [総説]

○イギリスの「一地方における」病院対象の質に応じた支払い [P 4 P] が死亡率に与える長期的効果

Kristensen SR, et al: Long-term effect of hospital pay for performance on mortality in England. NEJM 371(6):540-548,2014. [量的研究]

○質に応じた支払い [P 4 P] でボーナスを得ることは質パフォーマンスを持続的に改善するか? 「アメリカのプレミエール」病院の質インセンティブモデル事業」から得られたエビデンス

Ryan A, et al: Does winning a pay-for-performance bonus improve subsequent quality performance? Evidence from the Hospital Quality Incentive Demonstration. Health Services Research 49(2):568-587,2014. [量的研究]

○「カナダ・オンタリオ州に導入されたプライマリケア対象の」質に応じた支払い [P 4 P] に対する医師の反応：自然実験で得られたエビデンス

Li J, et al: Physician response to pay-for-performance: Evidence from a natural experiment. Health Economics 23(8):962-978,2014. [量的研究]

○質に応じた支払い [P 4 P] : 質に対して毒がある? 行動経済学から得られる洞察

Himmelstein DU, et al: Pay-for-performance: Toxic to quality? Insights from behavioral economics. International Journal of Health Services 44(2):203-214,2014. [評論]

<看護(2論文)>

○「アメリカの」正看護師は退職を延期しつつあり、この変化が最近の看護市場「における供給」拡大に貢献している

Auerbach DI, et al: Registered nurses are delaying retirement, a shift that has contributed to recent growth in the nurse workforce. Health Affairs 33(8):1474-1480,2014. [量的研究]

○「アメリカ」カリフォルニア州の看護配置最低基準法の「看護職」労働市場への影響

Munnich EL: The labor market effects of California's minimum nurse staffing law. Health Economics 23(8):935-950,2014. [量的研究]

124号(2014.11.1)

**3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文
(通算106回. 2014年分その8:8論文)**

○患者の選好は「アメリカの」メディケア医療費の地域的バラツキを多少、しかし有意に説明する

Baker LC, et al: Patients' preferences explain a small but significant share of regional variation in Medicare spending. Health Affairs 33(6):957-963,2014. [量的研究]

○医療情報技術が「アメリカの病院の」医療の費用と質に与える影響

Agha L: The effects of health information technology on the costs and quality of medical care. Journal of Health Economics 34:19-30,2014. [量的研究]

○「アメリカにおける」在宅ヘルスケア市場における競争と質

Jung K, et al: Competition and quality in home health care markets. Health Economics 23(3):298-313,2014. [量的研究]

○ [アメリカの] 営利メディケア在宅ケア事業所は、非営利事業所に比べ、費用が高く質は低い

Cabin W, et al: For-profit Medicare home health agencies' costs appear higher and quality appears lower compared to nonprofit agencies. Health Affairs 33 (8):1460-1465,2014. [量的研究]

○ [アメリカにおけるプライマリケア診療所の] 多数保険者のメディカルホーム介入への参加と医療の質、利用、費用の変化との関連

Friedberg MW, et al: Association between participation in a multipayer medical home intervention and changes in quality, utilization, and costs of care. JAMA. 311 (8):815-825,2014. [量的研究]

○ [アメリカの] 退役軍人庁が2010～2012年に実施した患者中心のメディカルホーム事業はわずかな経済的効果をもたらした

Hebert PL, et al: Patient-centered medical home initiative produced modest economic results for Veterans Health Administration, 2010-2012. Health Affairs 33 (6):980-987,2014. [量的研究]

○ [アメリカ] カリフォルニア州の [病院の] 救急部の閉鎖は近隣病院の [救急部受診後] 入院患者死亡率の上昇と関連している

Liu C, et al: California emergency department closures are associated with increased inpatient mortality at nearby hospitals. Health Affairs 33 (8):1323-1329,2014. [量的研究]

○ [アメリカの] 宗教法人、その他の非営利法人、および営利法人の病院の地域貢献活動：2000-2009年の時系列分析

Ferdinand AO, et al: Community benefits provided by religious, other nonprofit, and for-profit hospitals: A longitudinal analysis 2000-2009. Health Care Management Review 39 (2):145-153,2014. [量的研究]

125号(2014.12.1)

3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文
(通算107回. 2014年分その9:7論文)

○ドイツ、オランダ、イングランドでの統合ケアの経験とアウトカム

Busse R, et al: Integrated care experiences and outcomes in Germany, The Netherlands, and England. Health Affairs 33 (9):1549-1558,2014 [国際比較研究・量的研究]

○移行期ケア介入は慢性疾患を有する成人の再入院を予防する

Verhaegh K, et al: Transitional care interventions prevent hospital readmissions for adults with chronic illness. Health Affairs 33 (9):1531-1539,2014. [体系的文献レビュー (メタアナリシス)]

○8か国の病院管理費用の比較：アメリカの費用は他国よりはるかに高い

Himmelstein DU, et al: A comparison of hospital administrative costs in eight nations: US costs exceed all others by far. Health Affairs 33 (9):1586-1594,2014. [国際比較・量的研究]

○カナダ、イギリス、アメリカでの人口高齢化と医療費についての議論の枠組みの検討

Gsumano MK, et al: Framing the issue of ageing and health care spending in Canada, the United Kingdom and the United States. Health Economics, Policy and Law 9 (3):313-328,2014. [質的研究]

○年齢と死亡までの期間がプライマリケア費に与える影響：イタリアの経験

Atella V, et al: The effect of age and time to death on primary care costs: The Italian experience.

Social Science & Medicine 114:10-17,2014. [量的研究]

○デンマークでは高い病床利用率は院内死亡率と入院後30日以内死亡率の上昇と関連している

Madsen F, et al: High mortality of bed occupancy associated with increased inpatient and thirty-day hospital mortality in Denmark. Health Affairs 33 (7):1236-1244,2014 [量的研究]

○オーストラリアの公立病院 [で非緊急手術を受けた] 私費負担患者と公的医療利用患者

Shmueli A, et al: Private and public patients in public hospitals in Australia. Health Policy 115 (2-3):189-195,2014. [量的研究]

「二木立の医療経済・政策学関連ニュースレター」2014年（114～125号）

「私の好きな名言・警句の紹介」2014年分 人名索引

注：カッコ内は「ニュースレター」の号数。各行ごとに「ニュースレター」掲載順。外国人は姓のみ（ただし例外あり。例：トム・クルーズ）。映画・テレビドラマ・芝居のセリフはその名称（「」表示）。カッコ内の(A=B)：B号で初めて紹介したもののA号での再掲。

あ行

伊藤雅光(114),落合博満(114),板垣恵介(114),青木秀憲(114=105),内田義彦(115),アラン(115),大島伸一(115,123),The Economist(116),宇井純(116),天野祐吉(116),大塚義治(117),太田啓之(117),尾崎琢磨(117),梅原猛(117),内田樹(117),小野田寛郎(117,124),エマソン,R(118),小保方晴子(118),「相棒」(118),鶴飼哲夫(119),江見朗(119),尾木直樹(119),入江昭(120),奥田知志(121),小国綾子(121),井上ひさし(121),岩田正美(122),小野崎耕平(122),颯川晋(123),内村航平(123),上出洋介(123),宇沢弘文(124),岩井克人(124),天野篤(124),宇沢浩子(125),天野浩(125),赤崎勇(125),青山英康(125)

か行

北方謙三(114),熊谷晋一郎(114),今野晴貴(115),草野仁(115),川上哲治(115),河村健夫(115),小宮隆太郎(116),キャズヌーブ,B(117),是枝裕和(117),古賀誠(118),ゲーテ(119=87),加藤周一(119=13),菅直人(119),小山哲男(120),菊池寛(121),勝間和代(121),小泉今日子(121),カント(122),小島寛之(124),片田珠美(124),キーン,D(125),古賀茂明(125)

さ行

佐藤充(114),瀬古利彦(114=32),シャルティエ,E(114),ステンデル,R(115),シラー,R(116),杉山邦博(117),杉本健吉(117),佐藤優(117),篠山正幸(118),杉下右京(118),妹尾賢一郎(119),椎名誠(119),佐々木実(120),品川正治(120),シュミット,H(120),坂田利夫(121),サルトル,JP(121=46),佐藤博史(121),シン,A(121),佐藤優(121,124),千住博(123),杉晴夫(124),佐々木かをり(124),星陵高校ナイン(124),佐久間昭(125),佐渡裕(125),ジェームズ三木(125)

た行

十朱幸代(114),俵万智(116,125),高橋源一郎(117),出口治明(118),高梨沙羅(118),田中肇(119),谷川浩司(122),田村英治(123),栃本一三郎(123),高倉健(125)

な行

中嶋常幸(114),西山和夫(114),裴英洙(114),仲代達也(115),野村修也(116),西田敏行(118),二木立(119),ニクソン,R(120),永井千佳(122),野崎昭弘(123),中井貴一(124),

は行

平野啓一郎(114),樋口陽一(114),ホドコルフスキー(115),ファーマ,E(116),浜田純一(118),古屋将太(118),羽生善治(118),白鵬(118),フェラン,K(119),羽生結弦(119),藤本隆宏(119),ポープ,C(120),林竹二(121),樋口陽一(121),バーンズ,J(121),ピケティ,T(122),濱田逸郎(122),橋場弦(123),福岡伸一(123),本多利治(124),服部茂幸(125),浜六郎(125)

ま行

南アユ(114),宮崎俊(114),宮下創平(114),宮下直之(115),マンデラ,N(115),増田寛也(116),美輪明宏(116),南淵明宏(117=18),幕内雅俊(118),水島昇(118),森亘(118),村木厚子(118),御厨

貴(120),室伏広治(121),丸山眞男(121),村山常雄(121),むのたけじ(123),宮武剛(125)

や行

与良正男(115),吉村昭(116),山本博文(117),山口明雄(120),吉村作治の父(120),吉田誠一(122),柳沢脇二(122),湯川秀樹(123),山際寿一(123),山室信一(124)

ら行

リンドバーグ,AM(118),ルーズベルト,E(118),リプセット,S(119)

わ行

若月俊一(116),鷺田清一(122,124,125)

